

進路情報を収集しよう

・・・進路の具体化、受験勉強への移行のために

進路情報を収集しよう

2年生では進路の具体化と、予習・宿題といった勉強からいわゆる受験勉強への移行が大きな目標となってきます。そして、進路の具体化のために必要になってくるのが**進路情報の収集**になります。進路情報はどのようにして入手し活用していくかを考え、そして自ら足を運んで情報収集する場であるオープンキャンパスに参加していただくことが重要です。

まず受験科目調べを！

1年前を思い出すと、当時は文系か理系かを調べていたのに、今は受験校や受験科目を調べなければなりません。「科目登録説明会」や大学案内やオープンキャンパスの重要性を学ぶ進路ホームルームがありましたが、この時期にしっかりと、「自分は何々を学びたいから〇〇大学の〇〇学部を志望する」と言える必要があるのです。真剣に調べて的を射た科目選択をしてください。

情報はどのようにして集めるか

大学・短大・専門学校にはどのような学部・学科があるのか、またどの学校にその学部・学科があるのか、受験科目は何か、等を調べたりするためには、色々なところから多くの情報を集めなければなりません。また情報は自ら動かないと手に入らないという側面も持っています。以下、どのような情報をどういう方法で手に入れればよいか述べてみます。

A. 学校案内

- ・ほとんどの大学・短大・専門学校で7月には本年度の受験日程がすでに決まっています。大学・短大・専門学校に直接請求して、学校案内や受験ガイドのパンフレットを手に入れることができますし、インターネットには一括して請求できるサイトもあります。(有料の大学もあるので注意すること)。
- ・**募集要項(実際の出願に使う書類)**については、だいたい私立四大・短大は9月頃、国公立四大は11月頃に配布されるので注意を要します。
- ・**進路指導部にも、近畿地区の主な大学の学校案内や募集要項は届いていますので** 見たい学校名を進路指導部の先生に告げてください。

B. 過去問・赤本

- ・A校は小説が多く出題される、B校は文学史が必ず出る、など過去問(過年度入試問題)を見ればその学校の入試問題の傾向がよくわかります。受験をするには、自分を知る(自分の弱点となる単元やこれからやるべき課題などを知る)と同時に相手を知らなければなりません。**過去問にあたることは相手を知る一番の方法**です。どういうジャンルが多く出されているか、記述かマークか、特徴は、など、

相手を知ったうえでそれに対応した学習ができれば1ランク上の学校を狙えることも十分あります。

- ・過去問が最近数年間分収録され、解答解説や傾向と対策まで示してあるのが**いわゆる「赤本」(教学社)**です。志望校が決まればその学校の「赤本」はぜひ購入してください。使い方は、次の3段階になります。

- ①**まず1年分解いてみて問題傾向をつかむ**(マークか記述か、文法重視か長文読解重視か、古代からまんべんなく出ているか近現代中心か、問題数と時間の関係は、などチェックすべき点は多い)とともに、合格最低点まで到達するには、今後何を重点的に頑張ればよいかを考える。
- ②**大学案内のページを読んで**大学のプロフィールや学部・学科紹介、卒業後の進路、学生生活、入試状況など志望校のイメージをふくらませる。
- ③**同じメンバーが入試問題を作っているのであるから、他学部の問題や後期日程などの他日程の問題も傾向はほぼ同じである。**したがってそれらも含めて**すべて解いてみる**。すなわち1冊買えば、全ページ使えるわけだ。

- ・進路指導部には赤本が発行されていない大学の過去問がファイルされている場合もあります。その場合閲覧することができるし、必要があれば借りてコピーすることもできます。ぜひ利用してください。

C. 受験報告書

- ・進路指導部では、面接や小論文(作文)・実技試験が行われる学校を受験した場合には**「受験報告書」**を記入してもらっています。この報告書は、次に受験する生徒が傾向と対策を練る上で大変貴重な資料となるとともに、不当な差別や偏見によって合否判定が行われていないかをチェックするためのものです。この「受験報告書」も閲覧することができます。

D. その他

- ・さまざまな分野の職業について、その職業の現実と、「～になるには」どうすればよいかを解説している**「なるにはBOOKS」(ペリカン社)**を本校でも、図書室に置いてもらっています。
- ・代表的な受験誌として**「蛍雪時代」(旺文社)**を購入し、HRに置いてあります。
- ・学校推薦・総合型選抜関係、医療看護、小論文関係などの書物も進路指導部に置いてあります。

オープンキャンパス・1日体験入学のすすめ

オープンキャンパスや1日体験入学に参加するのも情報を集める方法の一つです。**志望校に直接行くため、パンフレットだけではわかりづらい点について直接質問することができ、自分自身の不安や疑問点を解消できます。**また、実際に行くことで**学校の雰囲気やまわりの環境や通学時間・方法などもわかります。**模擬授業や体験学習・実習のような催しもあり、将来学ぶ際のイメージがつかみやすいですし、場合によっては直接、大学教授や大学生と話をすることもできるでしょう。もう一つのメリットは、ぜひこの大学に行きたいとなってくれば、目標もはっきりするし、なにより学習意欲が高まることにあります。以下の注意点をよく読んで、計画を立ててみてください。

- ①一度に多くの学校から情報収集できないため、あらかじめ学校を絞ったり、質問項目を準備したりしておく必要がある。
- ②夏休みは、これらに参加する絶好のチャンスであるが、準備された内容より普段の授業がみたい場合は、定期考査最終日の昼からや、秋季休業日などを利用してほしい。